

池田忠広主任研究員

「へび」、一度は目にしたことがあるかと思えます。その独特の形態から爬虫類（はつちゅうりゆう）のなかでも好き嫌いが分かれるかと思えますが、どちらかと言うと苦手な人が多い印象です。かくいう私も実はその一人です。そうでありながら、へびの化石を研究しています。

日本列島の南西に位置する琉球諸島の島々には、ハブなど多くの固有種を含む多種多様な生物が生息しており、その豊かで特異な生物相が形成される過程については、現在さまざまな研究手法をもとに議論されています。

す。

その議論の中で、化石は過去の生物相の直接的な証拠であるため、研究成果が注目されています。現在、琉球諸島の各島々に分布する更新統（主に約2万〜1万年前）堆積物からは多数の脊椎動物化石が産出しており、先人たちが多くの研究成果を挙げています。写真①。その中で私が担当することになったのは、研究例が乏しい「へび類の椎骨（背骨）化石」でした。写真②。

いざ研究を始めてみるとなかなか大変でした。へびであるということとは割と簡単に分かりま



①石灰岩中にみられる脊椎動物化石



す。では何の種類なのかと問われると、答えを出せません。化石の分類に必要な情報が全くないのです。私が研究を始めた当時、北米や北欧では多くの研究例がありましたが、アジア地域のへびについては皆無に等しい状態でした。そこで、私が化石研究を始める上でまず取りか

②へび類椎骨化石



かったことは、日本や近隣地域に生息するへび類の椎骨を調べ、各グループの特徴を明らかにすることでした。化石を分類するための指標をつくったのです。

出来上がった指標をもとに各島々の化石をみていくと面白いことが分かってきます。特に宮

古島は顕著で、洞窟堆積物から多数のへび類椎骨化石が産出しているのですが、その一部を検討すると、ハブ類や巨大なナミへび類（シマへびなどが入るグループ）の化石も確認されています。

現在の宮古島にはこのようなへび類は生息していません。つまり、これらは数万年前に何らかの理由で同島では絶滅したこととなり、現在の宮古島のへび類相は数万年前と大きく異なることが明らかになっています。

へびの椎骨化石は大きくて2センチ、小さくて数ミリです。なぜ絶滅したのか、どのようにへび類相が変化したのか、まだまだ研究の途上ですが、一見何でもない小さな化石でも、しっかりと調べれば大きな発見をもたらしてくれます。いかがでしょうか？ 少しでもへびの味方が増えればうれしく思います（私も今では味方です）。

ひとばく 研究員 だより

小さな化石

宮古島のへび、数万年で一変